

Title	「日本語学術論文」即時オープンアクセス義務化を巡る論 点
Author(s)	研究・イノベーション学会 大学経営研究懇談会; 原田, 隆; 白川, 展之; 高橋, 愛典; 山之城, チルドレス智子; 設楽, 成 実; 高橋, 菜奈子; 小泉, 周
Citation	年次学術大会講演要旨集, 39: 3-3
Issue Date	2024-10-26
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19521
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載す るものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

「日本語学術論文」即時オープンアクセス義務化を巡る論点

主催：研究・イノベーション学会 大学経営研究懇談会

○ 原田隆（東京科学大学）、白川展之（新潟大学）、高橋愛典（近畿大学）

パネリスト：山之城チルドレス智子（Taylor & Francis Group, STM Japan Chapter 会員）、設楽成実（京都大学/紀要編集者ネットワーク）、高橋菜奈子（新潟大学）、小泉周（自然科学研究機構）

本セッションは、学術論文オープンアクセス（OA）政策の概要及び現状を整理した上で、（著者であり読者である）研究者、大学等の研究機関、そして出版社それぞれの認識、これから求められる対応について考察することにより「日本語学術論文の OA 実現・促進」を巡る論点を明らかにすることを目的とする。セッションの構成は、即時 OA 化の概要および基本用語の解説を行う第 1 部と日本語学術論文の著者、出版社、読者、政策推進者らによるパネルディスカッションと参加者との質疑応答を行う第 2 部で構成される。第 2 部では政策推進者に、関係者や業界が「漠然と抱えている」懸念や不安をどのように考えているか」を問うなど踏み込んだ議論を行う。

2023 年 6 月に閣議決定された「統合イノベーション戦略 2023」において「我が国の競争的研究費制度における 2025 年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセス（OA）の実現」が政策決定された。2024 年 2 月「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」が決定され、2025 年度から新たに公募を行う即時 OA の対象となる競争的研究費を受給する者（法人を含む）は、学術論文および根拠データが学術雑誌に掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載が義務づけられる¹。

一方で大学や研究者の OA 化への準備は十分とはいえない。文部科学省 科学技術・学術政策研究所が 2023 年 9 月から 12 月に約 1,500 人の研究者および約 800 人を対象に実施された調査によると 2025 年度に即時 OA の義務化される方針を知っていると回答したのは全体の 36%であった²。業務フローの確立は、研究者、研究機関、出版社の合意と協働によりはじめて実現できるが、それぞれの責任の所在はいまだ明確でない部分も多い。日本語論文の著者、日本語論文をリポジトリに収蔵している研究機関、出版社、そして学会は「OA 化にどのように向き合っていくべきであろうか」³。この問いについて広くディスカッションする。このような議論が各学会（界）で行われていることにより、学術論文の OA 化が健全に進展していくことを期待する。

謝辞：本研究は、次の科研費の成果である。

基盤研究(C) 23K02501 研究代表者 白川展之

「大学評価への計量書誌指標の導入のもたらす人文社会科学研究への逆機能性に関する研究」

¹ 対象は、NII Research Data Cloud 上で検索可能な「電子ジャーナル」に掲載された「査読済み」学術論文および根拠データである。内閣府「日本の学術論文等のオープンアクセス政策について」

(2024.25,26 開催オンライン説明会資料) https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_houshin_setsumei.pdf

また OA 化までの期間の目安として「論文刊行から 3 か月程度」が内閣府での説明会で示された（内閣府『学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針』の実施にあたっての具体的方策について）（2024.08.27,28）オンライン開催。

² 文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査（NISTEP 定点調査 2023）報告書」（2024.05）pp.79-83。 <https://nistep.repo.nii.ac.jp/records/2000106>

³ 日本語論文の OA 化に関する課題を扱う先行研究として次をあげる。

横山詔一、石川慎一郎、井田浩之、相澤正夫「日本語学術論文の即時オープンアクセス実現に向けて」ver.3(2024.09.04)。 DOI: <https://doi.org/10.51094/jxiv.720>